

和歌山県南岸からのシオマネキの記録

和田 恵次・宮川 貴子・横山 耕作

Keiji WADA, Takako MIYAKAWA and Kohsaku YOKOYAMA: Record of the rare fiddler crab *Tubuca* (*Tubuca*) *arcuata*
from the southern coast of Wakayama Prefecture, Japan

南 紀 生 物
第 67 卷 第 2 号 別刷

Reprinted from
NANKI SEIBUTSU: The Nanki Biological Society
Vol. 67, No. 2
Dec. 2025

和歌山県南岸からのシオマネキの記録

和田 恵次^{1)*}・宮川 貴子²⁾・横山 耕作²⁾

Keiji WADA, Takako MIYAKAWA and Kohsaku YOKOYAMA: Record of the rare fiddler crab *Tubuca (Tubuca) arcuata* from the southern coast of Wakayama Prefecture, Japan

シオマネキ *Tubuca (Tubuca) arcuata* (DE HAAN, 1835) は、日本沿岸では、東京湾以南沖縄島まで分布する(和田, 2022)が、記録される地域が限られ、多くの地域でその生息数は多くないため、環境省のレッドデータブックでは、絶滅危惧Ⅱ類とされる(環境省, 2020)稀少種である。和歌山県沿岸からは、これまで紀の川河口、有田川河口、日高川河口、切目川河口、田辺湾、富田川河口から記録されている(和田, 2022)が、まとまった個体群が維持されているのは、紀の川河口と日高川河口くらいしかなく、他の記録地は、いずれも生息個体数が10個体を下回る少なさである(和田, 2022)。本種は、かつて和歌山市の和歌川河口で多産したようで、1918年に和歌の浦から採集された標本が知られている(CRANE, 1975)。

本種の生息場所は、塩性湿地周辺の泥質干潟で地盤高は、大潮平均満潮線付近とされる(ONO, 1965; 宇野ほか, 2003; 大野ほか, 2006)。和歌山県沿岸での本種記録地は、いずれもこのような生息場所条件をもった河口域であるが、富田川よりも東南の沿岸域にも、同様の環境条件をもつ河口域や内湾は存在しているにもかかわらず、これ

まで、これら和歌山県南岸域からの本種の記録はなかった。

2025年7月12日に東牟婁郡那智勝浦町下里の太田川河口域(33°34'N, 135°55'E)で、NPO法人OWSが実施したベントス調査において、雄1個体と雌1個体(図1)のシオマネキを確認したので報告する。見つかったのは、河口部付近のハマボウ群落が広がる塩性湿地内で、ハマボウ樹下の泥底において地上活動中の個体として確認された。本種の巣穴口周囲には、特徴的な構築物chimneyが築かれており(WADA & MURATA, 2000)、今回見つかった2個体は、ともにchimneyのある巣穴から入り活動していた。

保全上、採集しなかったため、その体サイズや形態の特徴を精査できなかったが、目視により以下のような特徴を認めたため、本種の雄・雌と判断された。即ち、両個体とも、甲面や歩脚の外縁が暗紫色で、鉗脚が朱赤色を成し、額は狭く、甲の前側縁が後方に向かって強く狭まり、歩脚の長節は幅広かった。目視による甲幅は、雌雄ともに20mm前後とみられた。見つかった場所近辺



図1 太田川で見つかったシオマネキ雄個体(左)と雌個体(右)

^{1)*} 〒642-0001 和歌山県海南市船尾370-1 和歌山県立自然博物館 ilyoplaxkeiji@gmail.com

²⁾ NPO法人OWS

では、他に chimney 状の小型の巣穴が3個ほど見られたが、それらの巣穴からは、シオマネキの生体は確認できなかった。

観察された地上活動は、泥表をつまみ取る摂餌行動が中心で、他には近隣のアシハラガニへの威嚇行動が見られたが、繁殖に関係する行動 (waving や求愛接近など) は見られなかった。

見つかったハマボウ群落周辺からは、カニ類としては、シオマネキと同じスナガニ上科のチゴガニ *Ilyoplax pusilla* (DE HAAN, 1835) とハクセンシオマネキ *Austruca (Austruca) lactea* (DE HAAN, 1835) のほか、イワガニ上科のアカテガニ *Chiromantes haematocheir* (DE HAAN, 1833)、クロベンケイガニ *Orisarma dehaani* (H. MILNE EDWARDS, 1853)、フタバカクガニ *Parasesarma bidens* (DE HAAN, 1835)、ユビアカベンケイガニ *Parasesarma tripectinis* (SHEN, 1940)、ハマガニ *Chasmagnathus convexus* (DE HAAN, 1835)、アシハラガニ *Helice tridens* (DE HAAN, 1835)、ミナミアシハラガニ *Pseudohelice subquadrata* (DANA, 1851) が見られた。軟体動物としては、フトヘナタリ *Cerithidea moerchii* (A. ADAMS in G. B. SOWERBY II, 1855)、クリイロカワザンショウ *Angustassiminea castanea* (WESTERLUND, 1883)、ヒラドカワザンショウ *Assiminea hiradoensis* T. HABE, 1942、カワザンショウガイ *Assiminea japonica* E. VON MARTENS, 1877 が確認された。

太田川河口で今回見つかった甲幅 20 mm 前後のシオマネキの年齢は、本種の生活史を調べた研究 (OTANI *et al.*, 1997; AOKI *et al.*, 2010) に基づけば、幼生定着後1年経過したもの (1歳) とみなされる。また本種の繁殖開始年齢は、有明海や徳島では2歳と推定されている (OTANI *et al.*, 1997; AOKI *et al.*, 2010)。7月は、シオマネキの雄の waving が最も活発になる時期である (AOKI *et al.*, 2010) が、観察時に waving 活動が見られなかったのも、見つかった個体が未成熟個体であることを示唆する。以上のことから、本地域で見つかったシオマネキは、1年前に幼生の加入定着があり、それが成長した亜成体として生息しているものとみられる。

太田川よりも西方でシオマネキが記録される地域は、白浜町の富田川河口 (野元ほか, 2005) で、一方太田川よりも東方でシオマネキが記録されるのは、三重県の紀北町 (上野, 2015) であるが、いずれも太田川河口からは、沿岸沿いに 60–70 km 離れた地域である。その点から、太田川河口のシオマネキは、紀伊半島南岸の貴重な孤立個体群と言えらる。1年前に本地域に定着した本種幼生の供給元は、おそらく紀伊半島沿岸のこれら生息地か、あるいはそれよりも南方の四国・九州の生息地かもしれない。

謝 辞

現地調査に協力いただいた田原敬治氏 (和歌山県立南紀高校)、江崎光洋氏 (那智勝浦町下里区長) に深謝する。本現地調査は OWS の干潟保全活動として実施され、一部 ALAMCO SRI 社会貢献ファンド (あすのはね) の支援を受けた。

引用文献

- AOKI, M., Y. WATANABE, H. IMAI, M. KAMADA & K. WADA. 2010: Interpopulation variations in life history traits in the fiddler crab *Uca arcuata*. *Journal of Crustacean Biology*, **30** (4), 607–614.
- CRANE, J. 1975: Fiddler crabs of the world Ocypodidae genus *Uca*. 736pp. Princeton University Press, New Jersey.
- 環境省. 2020: その他無脊椎動物・環境省レッドリスト 2020. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>. (2025年8月4日参照)
- 野元彰人・木邑聡美・田中義之・黒田美紀・内野 透・唐澤恒夫. 2005: 和歌山県富田川河口域で確認されたシオマネキ (スナガニ科). *南紀生物*, **47** (2), 179–181.
- 大野恭子・和田恵次・鎌田磨人. 2006: 河口域塩性湿地に生息する稀少カニ類シオマネキの生息場所利用. *日本ベントス学会誌*, **61**, 8–15.
- ONO, Y. 1965: On the ecological distribution of ocypodid crabs in the estuary. *The Memoirs of the Faculty of Science, Kyushu University, Series E (Biology)*, **4**, 1–60.
- OTANI, T., T. YAMAGUCHI & T. TAKAHASHI. 1997: Population structure, growth and reproduction of the fiddler crab, *Uca arcuata* (DE HAAN). *Crustacean Research*, (26), 109–124.
- 上野淳一. 2015: シオマネキ. *in* 三重県レッドデータブック 2015. 388–389. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津.
- 宇野宏司・中野 晋・古川忠司. 2003: 重み付き評価指標を用いた稀少種シオマネキ生息地適正評価方法. *水工学論文集*, **47**, 1075–1080.
- 和田恵次. 2022: シオマネキ. *in* 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— [2022年改訂版], 440. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- WADA, K. & I. MURATA. 2000: Chimney building in the fiddler crab *Uca arcuata*. *Journal of Crustacean Biology*, **20** (3), 505–509.

Summary

The intertidal endangered crab *Tubuca (Tubuca) arcuata* (DE HAAN, 1835), living at the upper mud flat, has been known to occur limitedly at the western coast in Wakayama Prefecture, Japan. We have found two subadults (a male and a female) of *T. (T.) arcuata* in the estuary of Ohta River

located at the southern coast of Wakayama Prefecture. Estimated carapace widths (ca. 20 mm) of the two crabs are regarded as aged 1 year and as premature. The current finding reveals the disjunct distribution of the species along the southern coast of Kii Peninsula because the mouth of Ohta River is located 60–70 km apart from the nearby populations.